

舞鶴のまちづくり井戸端会議 一ちょっといいことの輪を広げよう



市民が主役のまちづくりに向けて「どうすればまちづくりにワクワクできる人が増えるのか？」をテーマに、市民参加が増える理由と減る理由を議論。

日 時:2025年11月26日(水)

場 所:中総合会館

参加者:32名
(NPO活動や市民活動参加者等)



市民参加が増える理由

※(●)は重要度を表しています。

1. やりがい・喜び ・子供たちの笑顔が見れる ・子ども達との交流が増える (●×1) ・人の役に立つ喜び (●×3) ・やりがいがある (●×2) ・知らない人が興味をもってくれた (●×1) ・考えてくれる人が増えた (●×1) ・にぎわいがみんなの喜びに繋がる ・自分がやれば誰かはついてきてくれる ・気軽にあいさつできる ・熱い人がいる (●×2) ・結果がでると協力も増える ・出逢うのが嬉しい (●×1) ・他人に喜んでもらうと嬉しい (●×1)	2. 成長・発見 ・人からの後押しがもらえる ・知らない事から視野が広がる ・興味あるモノとの出会い ・自分の成長を実感できる (●×2) ・人脈の広がり (●×1) ・子供達との活動と一緒に成長できる (●×1) ・人の意見を受け入れる ・誰が来てもいい雰囲気 ・ボランティアさんの強みを活かす (●×1) ・新しい発見がある ・教え教わる実践ができる ・部下指導のヒントが得られる ・ボランティアの興味・関心を増やす	3. 楽しみ ・活動していて自分が楽しい！ (●×1) ・おいしい食べ物があるコト (●×2) ・楽しい・嬉しいなどプラスのメリットがある ・やってよかったと思える楽しさ (●×2) ・物事がジブンゴトになったとき (●×4) ・おもしろそう！と思えるものがある (●×2) ・思ったこと・願ったことが実現するのはおもしろい ・やりたいこと、楽しいことをやる (●×1)
4. つながり ・つながりが増える・友達が増える ・世代間交流を通して刺激もらえる ・相談できる人がいる (●×1) ・つながりが広がると楽しい (●×2) ・前向きな人と逢うことが増えた ・自分の身近な人に関係(家族、友達) ・知り合いに誘われたとき、さらにつながりが増えていく (●×1)	5. 感謝 ・感謝されると次もやろうというやりがいにつながる (●×2) ・市民さんの便利な生活の役に立てた ・自分がいち市民だと実感できた ・感謝 (●×2) ・ありがたいなあと思うことが増えた	6. 発信力・広報 ・それぞれの市民活動の周知 (●×4) ・イベントが増えた ・子どもの声をボランティアさんに届ける工夫 ・関心をもたせる ・SNSの活用
7. 機会 ・集まれる場(機会)がある (●×1)	8. 資金 ・参加費が貰えること (●×4)	

市民参加が増える理由（主な参加者コメント）

※(●)は重要度を表しています。

1. **キーマンの存在**：活動を行っていく中で、一人でもキーマンとなるような熱い人がいると動きやすくなるし、周りがついていく。
2. **体験と共感**：子どもたちとの交流や協力してみんなで活動することで、共通のやりがいを感じ、みんなで楽しめる。
3. **新しい出会い**：活動を通じてまたそこからの新しい出会いや共感につながっていき、輪が広がっていく。
4. **主体性と楽しさ**：自分たちは「ボランティア」をしているつもりはない。自分が楽しいから自主的に市民活動を行っている。
5. **恩返しの精神**：子どもたちのために行う活動はやりがいが大きく、自分たちもしてきてもらったので恩返しをしたいと思う人が多いため、盛り上がりやすい。
6. **周囲への伝播**：最初は嫌だと思ってもまずは「楽しい」と周りに言うことで、自分も楽しかったと思えるようになり、それが周りに伝播して「〇〇さんがいるなら行くよ」と言ってもらえるようになった。
7. **推し活の感覚**：地域の魅力を伝えるために、まずは自分が地域に飛び込むことが重要。「推し活」をするような感覚で魅力を面白おかしく伝えていると学生も興味を持ってくれる。
8. **宣言による巻き込み**：やりたいことを色々な人に宣言しておくことで実現していった経験がある。
9. **お役立ち感の創出**：活動しようと思う人達が「誰かの役に立てる」「お役立ち感」をより感じる如果能够できれば、その活動が居場所になっていき自然と継続できる。

市民参加が減る理由

※(●)は重要度を表しています。

<u>1. 広報・周知の難しさ</u> ・活動自体の知名度が低い ・全体のPR方法(●2) ・知ってもらう機会がない ・広報ができていない ・つながる場所がわからない(●×1) ・SNSの普及(●×2) ・人を集めるのが難しい(●×3)	<u>2. 人材不足</u> ・土日が多忙(習い事?) ・人員不足で活動に参加しにくい ・少子高齢化 ・大人(指導者)が減り思った活動ができない(●×1) ・青少年団体とのつながりが少ない ・プラスαするための人手が足りない(●×2) ・SNSの普及(SNSが若者の居場所になっている)(●×2) ・高齢化により活動量が減る(●×2) ・若者の加入が全く無い	<u>3. 固定化・人間関係・世代間ギャップ</u> ・活動メンバーが固定(●1) ・固定メンバーのため入りづらい ・人間関係がめんどうさい(●×1) ・コミュニティができていると入りづらい ・ひとりで参加しにくい内容のとき ・世代間で意見の食い違いが生じる(●×1) ・それぞれ目標とする部分が異なる事が多く、統一が困難(●2)
<u>4. 他人事</u> ・大変だと思っている ・めんどくさい ・近所付き合い ・ボランティアだと思われる ・興味が持てない(●×2) ・自分のことで精一杯(●×1) ・周りのことを考える余裕がないとき	<u>5. トラブル・クレーム</u> ・変化することに苦言があった(●×2) ・親がマイナスなことを言う ・しかられる・しれない ・子ども同士のトラブル ・近隣住民からのクレーム	<u>6. 義務感・押し付け</u> ・義務感・マンネリ ・ボランティア(自主性)ではなく押し付け(●×1) ・役の押し付け合い(●×1)
<u>7. 資金</u> ・物価高・お金の心配(●×4) ・公的なスタートアップの補助がない ・無償の活動	<u>8. 舞鶴の課題・移動</u> ・知名度が低い(●×1) ・西と東(●×1) ・物理的な距離がある(●×1)	<u>9. はじめの一步</u> ・勇気が出ない(●×1) ・ハードルが高い

市民参加が減る理由(主な参加者コメント)

※(●)は重要度を表しています。

- 1. 周囲のネガティブな反応：** 活動を行っていく中で、変化することに苦言があったり、クレームが入ったりすることがある。また、親がマイナスなことを言うのも要因となる。
- 2. PRの難しさ：** ただ単純にPRするだけでは効果がなく、工夫して行う必要がある。また、周知ができていなかったり、活動自体が知られていないことも多い。
- 3. 固定化と高齢化：** どうしてもメンバーが固定されてしまい、高齢化も問題となっている。古い考えや固定化したやり方を行っているケースが多い。
- 4. 「ボランティア」のイメージ：** 周りから見たら「ボランティア」は大変だと思われる。
- 5. 資金面の不安：** 「ボランティアから始めてみよう」という入口は大切だが、それだけで継続していくことは難しく、どうしても活動資金が必要である。

その他(主な参加者コメント)

- 1. 活動団体間連携不足：** 舞鶴には様々なコミュニティがあるが、情報共有できる場所や気軽に集まる機会がなく、案外他のコミュニティの活動を知らない。活動団体や活動内容を HPをやSNSで広く周知すべき。活動団体がお互いを知れる仕組みがあるとよい。
- 2. 高齢者の活躍：** 熱意があって元気な高齢者も多く、もっと高齢者が活躍する仕組みがあってもいい。